

傷寒・金匱方劑解説 128 しー17

音順	方劑名	生薬構成 および製法・服用方法
	傷寒論・金匱要略条文	読み および解説・その他
しー17	芍薬甘草附子湯	<p>芍薬甘草湯 + 附子に相当する。            芍薬 (苦平) 3g・甘草 (甘平) 3g・炮附子 (辛温) 0.2g            上の3味を水 200ml を以って煮て 60ml となし、滓を去り 2回に分けて温服する。</p> <p>弁太陽病脈証併治中第六第 38 条 (傷寒論)</p> <p>「発汗するも病解せず、<sup>かえ</sup>反って悪寒する者虚するが故也。芍薬甘草附子湯之を<sup>つかさど</sup>主る。」</p> <p>解説 熱があつて、発汗をしても病状が少しも良くならないで、反って悪寒が余計にひどくなる様なものは、表が衰弱しているからである。芍薬甘草附子湯が主治する。</p> <p>芍薬甘草附子湯証</p> <p>新古方薬囊によれば「熱がありて汗も出て、絶えず悪寒し両足の引き吊りて伸びない者。熱のある病を汗を発し汗出でてでも癒えず反って余計寒気が加はりたる者は確実に本方の證となす。」と記されている。</p>